

# 『十勝型』地域包括ケアを目指して ～新たな医療・介護連携、4年間の歩みとこれから～

十勝連携の会  
笠松 信幸 幹事  
(かさまつケアオフィス  
合同会社代表)



## ⑨ てんむすQ&A

「十勝連携の会」の活動についてお話しする機会がある中で、そうした会場でお集まりの方々からいただいたご質問と回答をピックアップしてご紹介します。

**■Q■**  
「十勝連携の会」に入りたいのですが、年会費はいくらですか？

**■A■**  
会には「本会の目的に賛同する、十勝地域に生活する人、団体」が入会できます(会則第4条)。会費の額は幹事会で決めることになっていますが、実際は毎回の研修会でいただく資料代(200円)の一部で会の運営をしていますので、年会費はいまのところ無料です。なお、2012年から3年間は道の医療連携推進事業の助成を受けていますので、資料代も無料となっています。

**■Q■**  
例会に参加したいのですが、いつ開いていますか？

**■A■**  
本年度の例会は、研修会(9月27日)、住民公開講座(15年2月7日)、てんむすサロン(6月10日、10月10日、12月10日、15年3月10日)の6回が予定されています。それぞれ会場や時間が異なりますので、詳細はホームページ(<http://www.ten-musu.org/>)をご覧ください。気軽に参加出来ると好評な「てんむすサロン」は、10月以降は「ケア・カフェ」形式で行います。

### 平成26年度十むすサロン開催日程のご案内

- 第1回：6月10日(火曜日)  
テーマ「栄養士さんに聞く食への熱い思い」  
会場：グリーンプラザ B.C会議室
- 第2回：10月10日(金曜日)  
テーマ「安心して暮らせるまちづくり」その1
- 第3回：12月10日(水曜日)  
テーマ「家族」
- 第4回：平成27年3月10日(火曜日)  
テーマ「安心して暮らせるまちづくり」その2  
いずれも  
× 時間：18時30分～20時30分  
× 会場：グリーンプラザ 第2,3,4回はAB集会室で  
ケア・カフェ形式を検討中です

**■Q■**  
「十勝連携の会」は、公的な団体なのですか？

**■A■**  
もともとは、帯広市ケアマネ連絡協議会、道医療ソーシャルワーカー(MSW)協会道東支部、道作業療法士会十勝支部の有志でつくられた任意団体です。幹事会には行政の方々や医師、薬剤師、看護師など様々な職種から参加協力いただいています。あくまでもボランティア的な民間団体です。

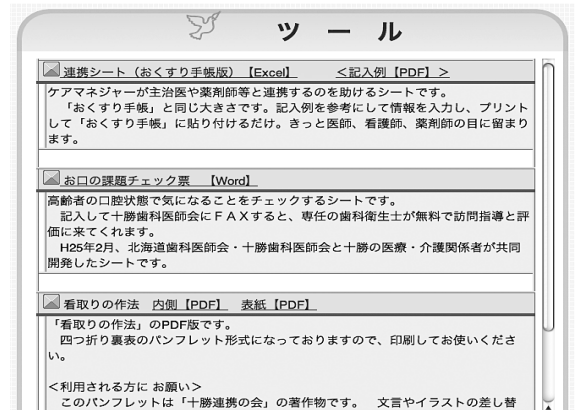
**■Q■**  
幹事会はどんな活動をしているのですか？

**■A■**  
幹事会は毎月第2水曜日の夜に開いています。保健所や市役所など行政機関、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・リハビリ職・MSWなど医療関係、ケアマネ・相談員・ケアワーカーなど介護関係の人達が手弁当で集まってきます。幹事会それ自体が多職種の集まりなので、1つの議題をめぐって様々な意見が出ます。職種に関係なく対等に議論するのがルールです。意見を述べ合う中で相互理解が生まれ、新たな発想が生まれてきます。つつい話し合いに夢中になり、終了が夜10時近くになることが唯一の欠点だと、私は思っています。  
また、幹事会メンバーには新聞記者もいます。医療介護専門職とは違った視点から意見がもらえるので貴重な存在です。「看取りの作法」をつくった時も、どんな形態で印刷するのが良いかアドバイスいただき、あのような四つ折り形式になりました。

**■Q■**  
「連携ツール」を使ってみようと思います。自分の地域に合わせて内容を変更しても良いのですか？

**■A■**  
ホームページには3つの連携ツールが掲載されていますので、ダウンロードして自由にお使

いただけます。  
「看取りの作法」は、十勝連携の会の著作物ですので、文言やイラストの差し替え、ページの組み替えはご遠慮ください。事業所等の名称・電話番号等を追記することは差し支えありません。「おわりに」のページに「あなたの連絡先」の記入欄がありますので、こちらにご記入いただくと思います。  
「お口の課題チェック票」は、最下段の連絡先を編集いただければ十勝以外の地域でもアセスメントツールとして活用いただけると思います。  
「おくすり手帳版連携シート」は、エクセルファイルですので、使い勝手が良いようにご自由に編集いただいて結構です。



**■Q■**  
「十勝連携の会」は、今後どんな活動をしていくのですか？

**■A■**  
道の医療連携推進事業補助金は本年度で終了しますが、来年度以降も、安心して住み続けられる地域づくりのために、多職種連携の取り組みをすすめて行きます。  
特に来年度は、地域包括ケアが本格的に動き出すことから、実務者サイドの連携をさらに深めていく必要があります。また、地域に求められる医療・介護のあり方検討、地域住民と一緒にすすめる包括ケアシステムづくりなど、視野を広げた活動も必要だと考えています。これらの点については、来週、詳しく述べさせていただきます。